

原子力の自主的安全性向上に向けた取り組みについて

2018年3月16日
電気事業連合会

私ども原子力事業者*は、福島第一原子力発電所のような事故を二度と起こさないという強い決意の下、新規制基準に的確に対応するとともに、徹底した安全対策に取り組んできた。

複数の原子力発電所が再稼働を果たした現時点においても、規制の枠組みに留まらない、より高い次元の安全性の確保に向けて、継続的に取り組んでいる。

このたび、「原子力発電の安全性向上のためにはトップのコミットメントが重要」という認識の下、昨年につき、原子力事業者および外部団体である原子力安全推進協会（JANSI）、電力中央研究所・原子力リスク研究センター（NRRC）のトップが一堂に会し、それぞれの果たすべき役割や新たな取り組みなどについて議論を行った。

具体的には、下記のような取り組みを三者の連携の下に実施していく。

- JANSIによるピアレビュー、支援活動、および発電所総合評価（ピアプレッシャー）等を通じた、事業者のパフォーマンス改善に向けた継続的な取り組み。
- NRRCと連携したリスク評価手法の充実と、その評価から得られた様々な要素を適切に組み合わせた意思決定。

さらには、新たに下記のような組織を設置し、原子力業界全体の知見・リソースを効果的に活用し、安全性向上に向けた取り組みを一層強化する。

- 規制の枠に留まらず自律的・継続的に安全性向上の取り組みを進めるために、原子力事業者・メーカー・関係団体など、原子力産業界全体の知見・リソースを効果的に活用しながら、規制当局とも対話を行い、効果ある対策を現場へ導入するための新組織の設立。

私どもは、今後も、強いリーダーシップの下、自主的・自律的な安全性向上の取り組みを着実に進めるとともに、第三者レビューを積極的に活用し、発電所のパフォーマンスを向上し、安全性や稼働率を向上させ、S+3Eを達成することで、日本の経済・社会に貢献してまいります。

さらには、規制当局とも公開の場で継続的な対話を行い、相互に良い影響を与え合い、原子力の安全性向上という事業者の使命をしっかりと果たすことで、社会の皆さまからの信頼回復に努めてまいります。

* 電力9社、日本原子力発電(株)、電源開発(株)